

令和 8 年度 一般入学試験
国語 1 科 入学試験問題

国語

注意

1. 答えは解答用紙のきめられたところに書きなさい。
解答らんをまちがえると、得点になりません。
2. 解答用紙に受験番号を書きなさい。
3. 試験時間は 5 0 分です。

昭和学院中学校

一次の【文章Ⅰ】・【文章Ⅱ】は、宮武久佳『正しいコピーのすすめ——模倣、創造、著作権と私たち』の一節である。これを読み、後の問いに答えなさい。なお、出題の都合上、表記を変えたところがあります。

※句読点や記号も一文字分とする

【文章Ⅰ】

著作権という概念が希薄だったころには、どのような創作活動が行われていたのでしょうか。まず、音楽の世界を見ましょう。A作曲家が先人の作品を模倣するケースです。21世紀の今では、同時代の人の作品を模したまま表現することは難しいです。著作権ルール上、「あつてはならぬこと」という抑制がはたされますが、現在のような著作権の概念がなかった時代には模倣行為は珍しくありませんでした。

「天才」の代名詞の筆頭に挙げられ、苦勞しなくても次から次へと作品を紡ぎ出したように思われるBヴォルフ・ガング・アマデウス・モーツアルト(1756—1791)は、既存の作品を模倣した作品を残しています。

ア、彼の作品の中でも最高傑作のひとつと言われるC《レクイエム 二短調》(死者のためのミサ曲)がそれです。この曲を書くためにモーツアルトは、自分の師匠にあたるミヒヤエル・ハイドン(1737—1806)が作ったD《レクイエム 八短調》を下敷きにしました。ミヒヤエルは、「交響曲の父」と呼ばれる有名なヨゼフ・ハイドン(1732—1809)の弟に当たります。

ミヒヤエルが《レクイエム》を書いたのは1771年。その20年後にモーツアルトは自作のレクイエムの作曲に着手しました。残念ながら未完のままモーツアルトは亡くなります(現在、CDや演奏会で普通に取り上げ

られるのは、後生の人が補筆した版であることが多いです)。未完にもかかわらず、名曲の誉れ高く、今でも繰り返し演奏されるモーツアルトの《レクイエム》には、ミヒヤエル作品に※1 依拠した痕跡があちこちに残っています。

『天才の勉強術』(木原武一著、新潮選書、1994年)という本でこのことを知りました。ミヒヤエルのLPレコードを探し当てて試聴しました。驚きました。「そっくりだ。モーツアルトは明らかに先人の作品を模倣した」という印象を持ちました。モーツアルトはミヒヤエルの作品を下敷きにして、自作を書いたらしいというのは、研究者の間で周知であることもその時知りました。モーツアルトは父のレオポルトが親しくしていたミヒヤエルとも面識があり、3人で一緒に仕事をしたり、作曲活動においては、共作したりすることもあれば、代作して名前を貸すこともあったことが記録に残っているそうです。

イ、作品としての出来はどうでしょうか。両者を比べると、モーツアルトの作品の方が、ミヒヤエルの作品よりも、メリハリがはっきりしていて分かりやすい上に、劇的に書かれています。そのためか、今日、ミヒヤエルの《レクイエム》はあまり演奏されませんが、モーツアルトの《レクイエム》はあらゆる指揮者がチャレンジします。

奇妙なことに、レクイエムは本来、死者を弔うために書かれたミサ曲(カトリック教会の典礼曲)なのに、ミサや宗教儀式と関係なく、コンサートにかかります。モーツアルト作品の中でも人気曲と言って良いでしょう。モーツアルトの生きた時代には今のような著作権の考え方はありませんでした。教会や宮廷にはおかえの作曲家がいて、彼らは、ミサや晩餐会、

祝賀会、典礼儀式などのイベントに付随する「音楽による飾り」を作る人というような存在であつたと考えられます。オペラ以外の音楽は、イベントのBGMに過ぎず、ベートーヴェンの少し前のハイドンやモーツアルトの時代では、音楽家は王侯貴族や教会に身分を保障してもらっていました。音楽家の地位は低く、モーツアルトでさえ食事を取るときは貴族とは別の台所でした。今日のサラリーマンのように、作曲家は、上司の命令を受けて曲を作る仕事をルーティンにしていたと考ええると、理解しやすいかもしれません。この意味で、芸術家というよりは、職人に近かつたのではないのでしょうか。E音楽家が芸術家として自己主張するのは、次の時代のベートーヴェンを待たなければなりません。

重要なことは、モーツアルトの《レクイエム》は、ミヒヤエル・ハイドンの作品がなければこの世に存在しなかつただろうという点にあります。名曲の誕生には、先行する作品の存在があつたということですね。

【文章Ⅱ】

「創造的であれ」「物真似はするな」と人が言うとき、「自分たちが見たことのないものを作る」ことをイメージしていると思います。そこで、「見たことも聞いたこともないもの」とは何か、を考えてみましょう。

「見たことのないもの」「聞いたことのないもの」と聞いて、皆さんは何を想像しますか。「見たことがない」のだから、難しいですね。「この世にないもの」を見るとするのは言葉の「ウ」のようにも聞こえます。しかし、先人は私たちが、あつと驚くような「この世のものでない」空想の動物や物体を表してきました。

私はF空想の動物の筆頭に「龍」を挙げます。龍は想像上の動物としては傑出しています。蛇のようなウロコでおおわれたボディを持ちます。4本か5本の指を持った手足があり、頭には2本の角と耳があり、口ひげを持ちます。普段は地中や水中に住みます。空に駆け上がると風雲が巻き起こり、天変地異をもたらすという他を圧倒する動物です。中国ではめでたい存在として天子になぞらえたりもします。

誰が最初に考えたのか分かりませんが、天地の間にある最強の動物ですね。西洋にも「ドラゴン」という龍に似た想像上の動物がいます。

龍のほかに、天界に住むというペガサス（天馬）や麒麟、鳳凰（火の鳥）もそうですね。

日本で身近な想像上のキャラクターは「天狗」や「鬼」「河童」でしょうか。誰もが知っていますが、実際に見た人はいないと思います。昭和の時代には「ゴジラ」をはじめとするさまざまな「怪獣」が作られました。平成の世の「ポケモン」や「妖怪ウォッチ」もそうですね。

西洋絵画の歴史では、「天使」ほどたくさん描かれた想像上の存在はありません。絵画史の主要テーマだつたと言つて良いでしょう。

よく見ると、これらの空想上の生物や存在には共通点があります。それは、実際に存在する動物や物体のパーツを組み合わせて作られているという点です。

龍は、いくつかの爬虫類動物が組み合わさっています。ペガサスは馬に翼がつけられています。天使は人間に羽根をつけたものとして描かれ、河童は人間に魚類や他の動物の要素が備わっています。手塚治虫が描いた「火の鳥」（フェニックス）も、鶏やクジャク、その他の動物の要素が組み合

わさっています。

見たことのない「おどろおどろしいもの」「神聖なもの」「こっけいなもの」は実は、G私たちに身近な素材の大胆な組み合わせなのかもしれない。古今東西において、最もすぐれたアートの巨匠ですら、「私たちが見たことのない何か」を提示することがこれほど困難なのも分かんと思います。

(注) ※本文中の漢字については、学習指導要領における小学生の配当以

外の難しい漢字にはふりがなをふっています。

※1 依拠……よりどころとすること。

問一 ―線部A「作曲家が先人の作品を模倣するケース」とありますが、

【文章I】では誰が誰の模倣をしたエピソードが描かれていますか。

次の1～5のうちから一つずつ選び、解答用紙に合わせて記号で答えなさい。

- 1 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
- 2 ミヒヤエル・ハイドン
- 3 ヨゼフ・ハイドン
- 4 モーツァルトの父レオポルト
- 5 ベートーヴェン

問二 ―線部B「ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト」が生きて

いた時代の説明として適当でないものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 音楽家に著作権はなく、教会や宮廷からの命令で曲を作る、職人のような存在だった。

2 音楽家同士での共作や代作は禁じられており、個人で活動するよりほかに方法はなかった。

3 音楽家は王侯貴族や教会に身分を保障してもらう存在で、今日よりも地位が低かった。

4 音楽家が作るオペラ以外の音楽は、イベントのBGMとしてとらえられていた。

問三 空らん ア、イにあてはまる言葉として最も適当なものを、

次の1～6のうちから一つずつ選びなさい。

- | | | | |
|-------|-------|--------|------|
| 1 例えば | 2 しかし | 3 なぜなら | 4 さて |
| 5 つまり | 6 従って | | |

問四 ―線部C《レクイエム 二短調》、―線部D《レクイエム ハ短調》の

説明として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 《レクイエム 二短調》は後世の人が補筆した版で演奏されることが多く、《レクイエム ハ短調》よりも今日の人気は低い。

2 《レクイエム 二短調》は名曲だが未完であるため、現在では《レクイエム ハ短調》が演奏される機会が多い。

3 《レクイエム 二短調》の方が《レクイエム ハ短調》よりも書かれた時代が古く、今日でも繰り返し演奏されている。

4 《レクイエム 二短調》の方が《レクイエム ハ短調》よりも劇的な書かれ方をしており、現在でも様々な指揮者に選ばれている。

問五 ―線部E「音楽家が芸術家として自己主張をする」とはどういうことですか。二十五字以上、三十五字以内で答えなさい。

問六 空らん ウ にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の1～

4のうちから一つ選びなさい。

- 1 矛盾 むじゆん 2 違反 いはん 3 逆転 4 競争

問七 ―線部F「空想の動物」の特徴を説明した部分を【文章Ⅱ】より三十文字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問八 ―線部G「私たちに身近な素材の大胆な組み合わせ」の本文以外の

例として適当でないものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 「人魚」は、人間とうろこのある魚を元に創造された。

2 「ラバ」は、ロバとウマを交配することで誕生した。

3 「三つ目小僧」こぞうは、人間の目を増やすことで生まれた。

4 「ユニコーン」は、馬に他の獣けものの角をつける形で作られた。

問九 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】で共通して語られていることとして最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 創作や創造は、模倣により起こるが、その方法はさまざまなので同じものは生まれない。

2 創作や創造は、先人の作品をないがしろにせず、敬意を払うところから発生する。

3 創作や創造は、「見たことのない何か」というよりも、誰もが知っているものの見方を変えることで起こる。

4 創作や創造は、無から創られるのではなく、もともとあるものに依拠して発生することがある。

二 次の【文章Ⅰ】、【文章Ⅱ】は、高森美由紀『小田くん家は南部せんべい店』の一節である。小学四年生の「弘毅」は、南部せんべい店を営む祖父の「よっしー」、祖母の「なぎばあ」、母の「恵理」、会社員の「父」、高校生の「芽衣姉ちゃん」と暮らしている。これを読み、後の問いに答えなさい。なお、出題の都合上、表記を変えたところがあります。

※句読点や記号も一文字分とする

【文章Ⅰ】（小学校の親子レクレーションに、「父」が来てくれると約束した。そこで「弘毅」は、「父」のために読む作文を書きあげた。）

親子レクレーションの前夜のことだ。

ランドセルに原稿用紙を入れていると、階下から両親の話し声が漏れ聞こえてきた。

なにを言っているのかまでは聞き取れない。

弘毅はむくりと起き上がった。カーディガンを羽織って、原稿用紙をランドセルから出した。父ちゃんに一回読み聞かせなくっちゃ。万一、発表されたくないことを書いていても、今教えてもらえれば直せるから。

折り畳んで、カーディガンのポケットに入れて底冷えがする階段を下りていく。

台所の明かりが土間を照らしている。声は抑えているつもりらしいが、薄い壁や建てつけの悪い戸の隙間から漏れ聞こえてくる。

「でもそれだと弘毅が……」

「しょうがないだろ」

引き戸のガラスから覗くと、テーブルをはさんで両親が向かい合っているのが見えた。母はパジャマにカーディガンを羽織っており、父はスーツのままだ。

「行けないって、弘毅は楽しみにしてたんだよ。年に一回のことじゃない。その接待、ずらせないの？」

「ずらせるわけないだろ」

父の声音がいつになく厳しくなる。心臓が冷たくなった。中に入っているのかダメなのか判断がつかねて、弘毅はガラス戸と壁のちょうど真ん中に立っていた。

「接待の準備をしていた後輩を、怒鳴りつけてしまったし……」

「ご飯と一緒に食べたりに目をかけてた子？ あなたが怒鳴るなんて」

A父がテーブルに肘をついて顔をこする。ため息が大きく聞こえた。

弘毅はガラス戸を開けた。

母がこつちを見る。父が振り向いた。揃ってバツが悪い顔をした。

弘毅の呼吸は荒くなっている。

「たかが親子レクじゃん。別に来なくていいよ。親子でクイズとかつまらないに決まっている」

自分の声が、震えている。堪らない。頭にきて仕方ない。足を踏み鳴らして喚きたい。すぐくBガチャガチャした気分だ。

しかし弘毅は怒鳴らなかった。爆発させたい気持ちを全力で潰して、震えていた。

「オレ知ってたもん。どうせ来れないって。だから全然驚かないし、ちっともショックじゃないんだ。平気だし」

芽衣姉ちゃんの時も来なかったのならそれでいい。怒りは湧かない。だけれど、芽衣姉ちゃんの時は毎年来てたんだ。なのにオレの時は来ないんだ。

芽衣姉ちゃんとは、朝起こされる時もおやつも夕飯も同じがよかった。差をつけられていないか、ずっと警戒してきた。実際、つけられたことはなかった、今までは。それが、今回はつけられた。親子レクには来ないんだ。だって。

「だってオレ知ってるんだ。どうせオレは」

そこから先を言おうとして、声に詰まった。涙がにじんでくる。たかが親子レクなのに。

「弘毅……」

母が父へ視線を滑らせる。

「あたしも少しだけお勤めしたことあるけど、会社つてのはあなたがいないくたつて回っていくのよ。自分がいなきや会社が止まると考えるのは、ずいぶんC傲慢でおめでたい考えよ」

ピシヤリと言った。

弘毅は驚いて目を丸くした。母がそんなことを言うとは思ってもよらなかった。父もそうなのだろう、顔を母へ向けたまま声を出せずにいる。その背中が強張っていた。

「あなたがいなくなれば、人は補充される。だけれど、弘毅にはあなたしかないのよ。弘毅には、あたしとあなたしかもういないの」

弘毅は母を見た。母も、父の背中もぼやけてにじんでいる。

「あなたが行けないのなら、あたしが行く」

「ただ君は」

父の頭がカレンダーへ向く。母が肩をすくめた。

「税理士さんの予約はまた別の日にしてもらう。今の時期激混みだから、変えてもらえるか分かんないけど。年に一度の親子レクなんだから」

「来なくていいって言ってるだろ。来るな。どうせオレなんか」

背後のガラス戸が開いた。

「おう。こった夜中に、わちゃわちゃして。どやしたずのや」

よっしーが起きてきた。がにまたが強調されるステテコをはいて、綿入れ半纏を羽織っている。その後ろにはなぎばあも。

弘毅はよっしーとなぎばあを押しのけて台所を飛び出した。

子どもさ「どうせ」なんて言わせるな、とDよっしーの硬い声が聞こえた。

階段の下で、カーデイガンのポケットから折り畳んだ原稿用紙を引き出した。

E二時間かかったそれを二秒見据えたのち、大きく息を吸ってビツと破き、小麦粉の袋などが捨ててあるリングゴ箱に投げ捨てた。

階段を駆け上がった、部屋に飛び込むと思いい切りドアを閉めた。

【文章Ⅱ】（親子レクレーションには、「父」の代わりに「よっしー」が参加した。帰宅後お遣いを頼まれた「弘毅」は、帰る途中でクラスメートの「潤」と会ったので声をかけたが、「潤」は目を合わせない。家に着くと「弘毅」が家出したことになっていて、「父」は慌てて帰宅していた。）

親子レクレーションまではいたって普通だったよっしーは、弘毅がスー

パーに行つて帰つてくる間に様子がおかしくなった。そして、スーパーと家との間で出会つたのは潤だ。

「潤となにか関係があるの？」

予想をぶつけてみた。

よっしーの顔が赤くなる。顔に出るよね、と芽衣姉ちゃんが感心する。こういうのが旦那だと、奥さんはさぞかし扱いやすかつたでしょうね、とつけ加え、なぎばあも分かりやすいのが一番だ、人騒がせだどもねと答える。

息を整えたよっしーは、なんでもない、とそっぽを向いた。

「なによ、おじいちゃん。教えてよ」

「よっしー。潤はなにを言つたんだよ」

孫二人がせつつく。

母と父がひそかに目を見合わせたのを、弘毅は察知した。そしてなぎばあもそれに気づいたようだ。チラツと仏壇に視線を走らせる。

「よっしー。言つてよ。オレの知つてることなんだろう」

よっしーがギョツとした顔を弘毅に戻した。

弘毅は目に力を込めて見返した。

よっしーが、観念したようにぼつりと呟く。

「※1歯医者の子がせんべいばいさきたついでに、聞いてきたんだ」

『小田君ちはみんなが仲良しでいいですね。それなのに、どうして本当の子じゃないなんて言つたんだらう。なにかあつたんですか？』

みな、黙り込む。

F 柱時計の振り子の音とラジオの音が聞こえる。

よっしーは誰が見ても分かりやすく顔色を変えたと思う。その顔色を見て、潤は確信したんだ。だから、すれ違った時に様子が変だつたんだ。

「あー、やだやだ」

急に、なぎばあが仏壇の前に膝でずっていつて、座布団を横にどけるとお鈴をチーンチーンと高く打ち鳴らした。

「ご先祖様、うちの孫がわけの分からないことを申しております。そんなわけないじゃありませんか、ねえ？」

「お義母さんの言う通りだよ弘毅。本当の子じゃないなんて」

父が弱り切つた顔で、額を手のひらでこする。弘毅とは目を合わせない。

「オレ、※2安江さんから聞いたんだ」

弘毅は言つた。

柱時計が時を刻む、ゴツチゴツチという力強い音が聞こえてくる。

「小学校に入るちよつと前。買つてもらつたばかりのランドセルを背負つてたら、安江さん、『お父さんとお母さんにも見せてあげたかつたね』って半泣きになつたんだ。そのあとで慌てて誤魔化してた。意味が分からなかつたけど、そつからずつと氣になつてた」

告げ口したみたいで胸がザラザラする。

安江さんを叱らないでよ、とつけ加えた。

弘毅はランドセルを引き寄せてお守りを握つた。保育園の頃は、通園カバンに下げていた。が、小学校に上がる時に母がランドセルにつけ替えてくれたのだ。もともとの色は白だつたけど今じゃ灰色になつてゐるし、あちこち擦り切れて毛羽立っている。「御守り」という刺繍の金色の字もほどこけて、文字というより模様になつてゐた。ずつと一緒だつた。

弘毅はなぎばあのそばに行き、仏壇の引き出しを開けた。経文やら数珠やらが入っているその奥に、紫色の畳まれた布がある。

取り出して開くと写真が数枚現れた。カラーの遺影と同じ男の人と女の人が映っている。女の人は赤ん坊を抱っこしている。その腕に引っかっている大きなバッグにぶら下がっているのは白いお守りだ。

写真を裏返すと浩二、真理、弘毅と書かれてある。

「この人たちが、オレの……」

弘毅は遺影に目を移した。手元の写真と同じ顔。そして二人は笑顔だ。女の人は今の自分に似ている。

自分の親を覚えていない。

悲しいという感情にはなかなかたどり着けない。

特に気持ちの上がり下がりもない。

どこかぼんやりと鈍くて、曖昧な感じだ。

「んだ。おめの父親と母親だ」

よっしーが断言する。

「じいさん」「父さん！」「お義父さん……」「おじいちゃん」

G 四人がたしなめる口ぶりで呼ぶ。

よっしーは一切構わず、鼻毛を抜き「おお、痛え」と、涙目になりながら、毛を息で飛ばした。芽衣姉ちゃんが「うっ。飛ばした」と身を引く。

「死んだ原因は分かるぞ？」

よっしーが弘毅に問う。

みんなが固唾を呑む。

弘毅は頷いた。

「あの黒い板みたいなのに日づけが書いてあるから、震災だろうなって思ってた。震災は授業で習った」

「黒い板は位牌つーんだ。おめが一歳の頃は、宮城県の石巻で暮らしてたんだ。震災の日、おめは保育所さ預けられて助かった。おめの母親は恵理の一つ下で、真理って名前、週に何日か介護施設で働いた。父親は浩二つつて小学校の先生だった。二人とも職場で津波さ吞まれた」

両親が死んだと聞いても、テレビのニュースやドラマを眺めているような感じがするばかりで、感情が激しく波立つこともなければ、涙も出てきやしない。

「浩二さんの両親も一緒に亡くなっちゃったんだよ」

と、なぎばあが視線を落とす。

「そのお守りがあつたすけ、助かったんだかねえ」

H 弘毅は改めてお守りを握る。

「弘毅が生まれた時」

と、母が静かな眼差しをお守りに注ぐ。

「真理も浩二さんも大喜びしてね。浩二さんのご両親もお祝いして、そりやあもちろんあたしたちもお祭り騒ぎだったんだよ。芽衣なんて抱っこしたがつて、父さんと奪い合いになってね、大変だったんだから」

芽衣姉ちゃんが「おじいちゃん、なかなか渡してくれなかったよね」と笑う。よっしーは靴下の毛玉を熱心にむしっている。父は頷いている。

「あの時の真理のぴかぴかの笑顔、よーっく覚えてるよ。弘ちゃんのおかげで、母親になったあの子の笑顔は忘れることは、ね」

なぎばあが割烹着^{かつぼうぎ}の裾^{すそ}をギュツと握^{にぎ}って、微笑^{ほほえ}んだ。目の端^{はし}が、湿^{しめ}っているように見えた。

「だすけ弘ちゃん。じいさんも言ったども、自分さ関わることで『どうせ』なんて言ったらダメだよ。弘ちゃんは、みんなから祝われて生まれてきたんだすけ」

I 弘毅の胸がギュツとした。

(注) ※本文中の漢字については、学習指導要領における小学校の配当以外

の難しい漢字にはふりがなをふっています。

※1 歯医者^{しめや}の息子……「潤」のこと

※2 安江さん……小田せんべい店に昔からいるパートさん

問一 ―線部A「父がテーブルに肘をついて顔をこする。ため息が大きく

聞こえた」とありますが、ここから「父」のどのような気持ちが変わりますか。最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 親子レクレーションに行く^{いく}と約束した手前、今さら接待の仕事に行く^{いく}と言いくく、「母」がうまく伝えてくれないかと願^{ねが}う気持ち。

2 大事な接待と親子レクレーションの日が重なる不運^{ふげん}を嘆^{なげ}き悲しみ、これからの行動が決められずに困っている気持ち。

3 親子レクレーションも大事な行事だとわかっているが、今回は仕事を選ぶ^{えらぶ}しかなく、どうしようもない気持ち。

4 「弘毅」との約束を破り仕事に行くことは望んでいないが、生活のために仕事を選ぶ^{えらぶ}しないと自分に言い聞かせる気持ち。

問二 ―線部B「ガチャガチャした気分」とありますが、このときの「弘毅」の気持ちを、六十文字以内で説明しなさい。

問三 ―線部C「傲慢」の意味として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 自分を劣^{おと}ったものとして低く見ること。

2 思い上がり、人を見下した態度であること。

3 陰^{かげ}でこっそり悪質なことをすること。

4 喜びで気分が舞い上がっていること。

問四 ―線部D「よっしー」の硬い声が聞こえた」とありますが、このときの「よっしー」の気持ちとして最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

1 夜中に子どもを交えて言い争いをしている父母に対して、子どもに話をする時間ではないと注意する気持ち。

2 夜中に三人の話し声がいつまでも続いたので気になり様子を見に来たが、たいしたことなくほっとした気持ち。

3 夜遅くに興奮しながら父母と話す子どもの様子を見て、大人の立ち居振る舞いについて苦言^{くげん}を呈^{てい}する気持ち。

4 夜遅くに子どもを動揺^{どうよう}させるようなことを言った父母を、年長者としてたしなめる気持ち。

問五 —線部E「二時間かかったそれを二秒見据えたのち、大きく息を吸ってビツと破き」とありますが、このときの気持ちとして最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 「父」が喜ぶように家族と協力して書いた作文だが、「父」が親子レクに来てくれないことを知り、落胆する気持ち。
- 2 「父」のために一生懸命書いた作文なので本当に不要か迷ったが、「父」が来ないなら破り捨ててしまおうと決心する気持ち。
- 3 気分よく書けた作文だが、親子レクに来ないと言った「父」の顔がちらつき、作文の存在そのものが煩わしい気持ち。
- 4 自分では上出来の作文だと思ったが、先ほどの「父」の姿と一致せず、時間を無駄にしてしまったと後悔する気持ち。

問六 —線部F「柱時計の振り子の音とラジオの音が聞こえる」とありますが、この描写にはどのような効果がありますか。最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 柱時計の正確に時を刻む音が、次第に家族の気持ちと同じ方向へとまってゆく様子を表現している。
- 2 ラジオの音が聞こえることで、その場の雰囲気を日常にもどし、別話題に切り替える効果を生んでいる。
- 3 柱時計の振り子の音とラジオの音という生活に密着した音がすることとで、気まづさが緩和されていることを表現している。
- 4 柱時計の振り子という時を刻む小さな音とラジオの音以外聞こえず、人々が黙り込んだ後の緊張感を表現している。

問七 —線部G「四人がたしなめる口ぶりで呼ぶ」とありますが、四人それぞれ言い方に込められた気持ちとして適当でないものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 驚き
- 2 動揺
- 3 後悔
- 4 当惑

問八 —線部H「弘毅は改めてお守りを握る」とありますが、現在のお守りの状態が書かれた連続する二文を探し、初めの五字を抜き出しなさい。

問九 —線部I「弘毅の胸がギュツとした」とありますが、このときの「弘毅」の気持ちとして適当でないものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 安心
- 2 期待
- 3 せつなさ
- 4 喜び

問十 この文章の表現の特徴として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選びなさい。

- 1 第三者の視点から客観的に「弘毅」と家族の会話が書かれているため、「弘毅」の心情が読み取りやすくなっている。
- 2 「よっしー」の視点で孫の「弘毅」とのやり取りが書かれているため、「よっしー」の人物や家族への思いが読み取りやすくなっている。
- 3 「弘毅」の視点を中心に書かれているため、「弘毅」の性格や揺れ動く心情の変化が読み取りやすくなっている。
- 4 せんべい店で暮らす人々の視点で書かれており、細々とした生活の描写から、仕事に誠実に向き合う心情が表現されている。

三 次の―線部のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- 1 飛行機をソウジュウする
- 2 あなたからのロウボウをお待ちしています
- 3 エンドウにたくさんの人が集まる
- 4 樹木のせんでい作業をする
- 5 あなたの笑顔は元気の源だ
- 6 賃貸アパートを契約する

四 次の四字熟語の―線部を漢字で書きなさい。

- 1 タントウ直入
- 2 シンソウ心理